

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27年 2月 25日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100660		
法人名	社会福祉法人 共助会		
事業所名	グループホーム 畑賀時計台		
所在地	広島市安芸区畑賀2丁目23番33号 (電話) 082-820-6190		
自己評価作成日	平成27年2月1日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3490100660-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島市安佐北区田口南4-46-9
訪問調査日	平成27年2月25日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>①認知症の入居者様が落ち着いて楽しく過ごしていただけるように環境整備や福祉機器等の充実や、活動・イベント等の工夫に努めている。</p> <p>②入居者様やご家族様が安心して暮らせるよう、入居者様の状況を細めに情報提供し連携を密にしている。又、接遇や介護知識（技術）の勉強会に参加し職員の質の向上に努めている。</p> <p>③入居者様の健康維持のため、バランスのとれた食事の提供、ロコモーション訓練や散歩など、体力維持・向上に努めている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>グループホーム畑賀時計台は山あいの静かな住宅街にあります。近くに病院、郵便局、小学校、コンビニなどもあります。建物は陽当たりもよくベランダ側は川に面し、せせらぎの音が聞こえ、玄関からベランダまでプランターや鉢植えの花が整備され、利用者を楽しませています。新築されたばかりの建物で清掃も行き届いています。職員は、入居者のこれまでの生活歴を重視し、自分らしい生活が送れるよう、常に利用者の意思や人格を尊重したサービスの提供を心がけています。施設での生活に満足され 家庭的な雰囲気の中で安心して暮らしていただけるように、医療との連携はもちろん、地域の方々との交流も積極的に図っています。炊事や洗濯、掃除など日常の営みと共に職員のトークを交えながら、毎日1時間のロコモーション体操は、心身の機能維持・向上に役立っています。</p>
--

グループホーム畑賀時計台

自己評価	外部評価		自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	・家庭的な環境を提供し、常に職員が入居者様に寄り添い、きめ細やかなケアを行っている。	ユニットの目標である親切で丁寧な言葉遣い「おはようございます」「失礼いたします」「有り難うございます」を毎朝唱和し、法人の理念の一つである優しさとサービス精神をもって適切な支援を行う一助としている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している。	・入居者様や職員が町内の行事や会議、清掃等に参加したり、ボランティアの訪問を受け入れる等の交流を行っている。	町内会に加入し町内の行事や清掃活動に参加している。地域交流室を設け認知症の勉強会を開催したり、地域の方の会議などに利用して貰っている。畑賀地区の福祉祭り、イキイキサロンに参加するほか、「安心ネットワーク」の活動委員会の委員として運営に協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	・地域交流室を開放し、認知症の勉強会を実施したり近所の方々が相談に来られている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	・運営推進会議を2ヶ月に1回、実施中であるが会議で出された意見や、アドバイスを取り入れ実際に役立っている。	運営推進会議は2ヶ月に1回、利用者・家族・包括支援センター職員・管理者・職員が参加して開催する。ホームの現状・行事報告・予定ヒヤリハットなど報告し、参加者から意見助言を頂きサービス向上に役立っている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	・不明な点があれば、市町担当者に連絡、相談しケアサービスに役立っている。	ホーム設立や運営についていろいろ相談に行き、事業所の実績やサービスの取組みを積極的に伝え協力関係の進展に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	・基本的には、身体拘束をしない方針ではあるがやむを得ない場合は、ご家族様と相談し、書面にて了解を得るようにしている。	身体拘束はしない方針であるが、やむを得ない場合は家族と相談し書面で了解を得ている。玄関はやむを得ず施錠しているが、エレベーターは自由にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。	・日頃から、職員間同士で、虐待防止の意識を持ち小さなことでも見過ごさないように話し合い、心がけている。		

グループホーム畑賀時計台

自己評価	外部評価		自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	・成年後見制度の対象入居者は、まだ、おられないが制度についての話題は、時々出ており職員間で話し合っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	・契約の際は、丁寧に説明し納得いただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	・2ヶ月に1回の運営推進会議、1年に2回の家族懇談会等を通して要望など伺い運営に反映させている。	家族が面会された時、運営推進会議、年2回開催する家族懇談会で出された家族の意見・要望を聞き運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	・月に1～2回はミーティングを実施し職員の意見を聞く機会を設けている。それ以外にもアンケートの実施や個別での面談も実施している。	全体ミーティングを月1～2回実施し職員の意見を聞く機会を設けている。緊急度の高い意見が提案された時はユニット毎にミーティングを開催しリーダーに伝え検討する。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	・管理者や職員の勤務状況を常に把握し各職員が、やりがいを持って働けるよう労働条件や職場環境の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	・法人内の勉強会を毎月実施し、職員の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	・認知症ケアサポーターや、地域包括支援センターまた、福祉協議会や、町内会等の活動や勉強会への参加を促し、連携を図るよう指導している。		

グループホーム畑賀時計台

自己評価	外部評価		自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	・初期アセスメント表を使用し、本人様の状況把握や要望などを丁寧に聞き、環境や人に早く馴染んでいただき、信頼関係が早く築けるよう、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	・入居時にも、ご家族様に詳しい聞き取りや説明を行うが、入居1ヶ月内に担当者会議を開き 要望等を聞き、連携に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	・初期アセスメントを実施し、優先順位をつけ優先度の高い要支援項目に着目し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	・介護をする側、される側として、分けるのではなく共に生活をしていく仲間としての関係づくりを築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	・ご本人様の情報提供を密にし、共に支援していけるよう家族と相談しながら連携をとっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	・ご家族・知人・親戚・近隣の人達との訪問を歓迎し面会しやすい雰囲気づくりに努めている。地域への習い事も継続していただいている。	家族や以前参加していた登山サークルの仲間など友人や知人が訪問しやすい雰囲気作りをしており、詩吟など習い事の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	・入居者同士の性格や、関係性の把握に努めできるだけ仲良く過ごせるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	・相談・必要性があればすすんでフォローする用意がある。		

グループホーム畑賀時計台

自己評価	外部評価		自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・担当会議だけでなく、常日頃から入居者様一人一人の思いや希望を聞き理解するよう努めている。困難なケースは本人様や家族とも何度でも話し合っている。	日頃から一人ひとりに寄り添い希望や意向把握に努めている。スラックスで過ごされる方が多いが、スカート希望される方はスカートにされるなど、本人の希望を大切にし、家族とも何度でも話し合い本人本位に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	・普段の会話や過去の出来事など、折にふれ本人様やご家族様から伺い、その情報は職員全員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	・その日の出来事や変化や状況は生活日誌や個人記録に記録し、職員間で、共有している。又、連絡ノートの活用によりきめ細かい情報把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	・アセスメントで情報を把握し、担当会議でプラン調整を行い、3ヶ月に一度のモニタリングで計画の見直しを行っている。	3ヶ月に1度モニタリングを開催し日々の個別記録や計画の実施状況を確認し、介護計画担当会議に本人・家族も参加して現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	・毎日の個別記録に計画の実施状況を記入し計画がきちんと実施されているか、確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	・家族交流会(懇談会)、近隣の人達との交流ボランティアの利用、地域の資源を生かした取り組みなどを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	・入居者様が、地域で行っている習い事に参加したり近隣の畑で、野菜作りに参加すること等支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	・通院や往診がスムーズに行えるように主治医などと連携を密にし、支援を行っている。	連携病院から月2回往診があり、主治医への受診は家族が対応する。歯科は月2回往診があり希望者が受診し、必要に応じて追加の往診がある。家族の事情により通院や往診がスムーズに行えるよう主治医と緊密に連携を取り支援している。	

グループホーム畑賀時計台

自己評価	外部評価		自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	・週1回、定期的に訪問看護師による訪問を受け情報交換も密に行っている。 入居者の体調の変化や、相談事等きめ細かに連絡し、調整を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院した際は、本人様の情報収集のため職員による面会や、医療連携室との情報交換を密に行っている。退院時も、同様に行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	・ご家族様、主治医、訪問看護師、職員間で情報提供を行った上で、丁寧に説明し納得いただき、それを介護計画にのせている。 各職種と家族が、プランの内容を把握し、連携しながら支援を行っている。	重度化した場合の在り方について、本人家族と話し合い情報提携し家族・主治医・訪問看護師・職員が連携し出来るだけ支援する。職員は看取りについて研修している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	・日頃から、事故や急変時の職員の対応についてミーティングや勉強会等で話し合い急変時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	・職員が順番に防災訓練の研修に参加している。又、実際に防災訓練を実施する予定(H27.3月頃)である。	消防署の防災訓練の研修に職員が順番に参加し研修している。ホームでの防災訓練は3月中に実施の予定である。	消防署から実地指導に来て貰い、早急に実施されることを期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	・日頃から、人格の尊重をするような言葉遣いや態度について指導し、お互いに注意し合っている。	排泄や入浴支援の際、プライバシーに配慮すると共に言葉遣いや態度についても心配りしている。職員間の言葉遣いも穏やかな言葉遣いをするように注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	・言葉にならない思いを普段からくみ取るように心がけ職員間でも話し合っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	・ある程度「一日の流れ」は決まってはいるが食事時間や入浴時間・曜日など本人のペースを尊重し、行っている。		

グループホーム畑賀時計台

自己評価	外部評価		自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	・身だしなみやおしゃれに関心が持てるような声掛けを日頃から心がけている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	・食事にに関して一人一人の好み反映されるよう心掛けている。食事の準備やあと片づけも一緒に行い、食事に対する興味、関心を持っていただいている。	食事は食材を購入しホームで調理している。利用者の好みを聞き、利用者も参加しておはぎ・巻きずしなどを作る。食事は楽しく会話しながら食べ配膳や下膳など出来る方は手伝っている。職員とファミレスへ出かけたり、家族と喫茶店へ出かける方もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	・管理栄養士による献立で調理し、栄養バランスに配慮している。一日の食事量や水分摂取量もきめ細かく観察し、記録にも残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	・専門家による口腔指導により、一人一人の口腔状態を把握している。又、毎食後の口腔ケアも、きちんと支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	・排泄表を利用し、個々の排泄パターンを把握し、排便コントロールにも活かしている。又、できるだけ、トイレでの排泄を心がけ、自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、排便コントロールに活かし、オムツの方もあがりハビリパンツを使用し、出来るだけトイレでの排泄を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	・水分をしっかりと摂っていただいたり、定期トイレ誘導をして、排便を促すように心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	・外出される入居者や、テレビ番組に合わせた時間や曜日を希望する入居者もおられるが、その方に合った方法を優先している。又、できるだけ、本人様のペースに合わせてゆっくり入浴を楽しんでいただいている。	週2回を目安にしている。曜日や時間帯など本人の希望を尊重している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	・入居者様一人一人の状況に合わせて、必要なタイミングで休息を取っていただいている。室温や照明・清潔な寝具を提供して、静かな環境を提供できるよう、心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	・薬の準備、確認は、それぞれ役割分担し、服薬表を作成し、二重、三重にチェックを入れ、誤薬ミスを防いでいる。又、入居者様の心身の状態は常時観察し、少しの変化も見逃さないようにしている。		

グループホーム畑賀時計台

自己評価	外部評価		自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	・花の水やり、洗濯物を干す・たむ、食器の後片付け食事の盛り付け等のお手伝いをその方に合った方法でやっていた。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	・お天気の良い日は、その人の状態に合わせて敷地内や近所の散歩を毎日行っている。 本人様の希望に合わせ、ご家族様の協力もいただきながら、外出等行っている。	お天気の良い日には体調に合わせ、敷地内や近所を毎日散歩している。本人の希望により遠方への外出は家族の協力で行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	・現金は職員が預かり、本人様の希望があれば本人様・家族様の了解を得て、自由に使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	・電話の取次ぎ、手紙のやりとりなど本人が自由にやりとりできるよう、支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・出来るだけ明るく、整理整頓された空間を提供するように心掛けている。又、季節の花や、飾り物（作品）などを玄関、廊下、リビング等に置き季節感を取り入れている。	掃出し窓がありベランダへは自由に出られる。リビングは明るく、ベランダには手入れの行き届いたプランターがたくさん並べられ季節の花が咲き揃っている。玄関、廊下、トイレ、浴室等掃除も行き届いている。鉢植えや利用者の作品等飾られ季節感もある。ソファが置かれゆったりできる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	・テーブルやイスなどの配置、気の合った人同士と一緒に過ごせるような、座席になるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・本人様のADLに即した、ベッドの位置、使い易さ今までの生活習慣等に考慮した居室作りを本人や家族様と相談しながら工夫している。	ベッドの置き方や家具など本人や家族と相談しながら配置している。TVや家族の写真など、使い慣れたものや好みのものを活かして居心地良く暮らせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	・照明の工夫、福祉用具の活用等を考慮し安全で自立した生活が送れるよう配慮している。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホーム畑賀時計台

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム畑賀時計台

作成日 平成 27年 2月 25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	初年度なので避難訓練がまだできていない。	消防署の指導により年2回の消防・避難訓練を実施する。	運営推進会議等の開催日に合わせて訓練を実施し、地域の方々にも参加して頂けるようにする。	1年間
2	13	職員の意識レベル向上。介護に関する技術や知識がある程度はあるが、さらに深く理解し掘り下げる必要がある。	職員の介護技術や知識や接遇の向上を目指す。	月1～2回のミーティングの時に、勉強会も実施する。特に身体拘束や虐待防止等に取り組む。	1年間
3	29	地域に習い事に行ったり隣の方達と交流できてはいるが、更に積極的なかわりを持ちたい。	入居者様が住み慣れた場所で、地域の方達とうちとけ、共に交流を楽しむ環境作りを目指す。	地域の行事に、積極的に参加したり、ボランティアをつのって活動する機会を増やす。	1年間
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。